

堺市・資源循環型廃棄物処理施設整備事業に係る 事後調査報告の概要

1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

事業者の名称： 株式会社 堺クリーンシステム

代表者の氏名： 代表取締役社長 米田 勝司

主たる事務所の所在地： 大阪府堺市北区南花田町 32 番地 1

2. 事業の名称

堺市・資源循環型廃棄物処理施設整備事業

3. 対象事業の実施状況

3-1. 調査実施日

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

3-2. 調査期間の工事の状況

工事工程表は表 3-1 に示すとおりであり、本事業の建設工事は平成 22 年 6 月着工、平成 25 年 3 月竣工予定とする概ね 3 ヶ年の計画としています。なお、平成 23 年度は主に建築工事及びプラント工事を実施しました。

表 3-1 工事工程表

工事 \ 年度	H22	H23	H24	H25
基礎工事	←→			
建築工事		←→		
プラント工事		←→		
外構工事			←→	
試運転			←→	

4. 事後調査の方法

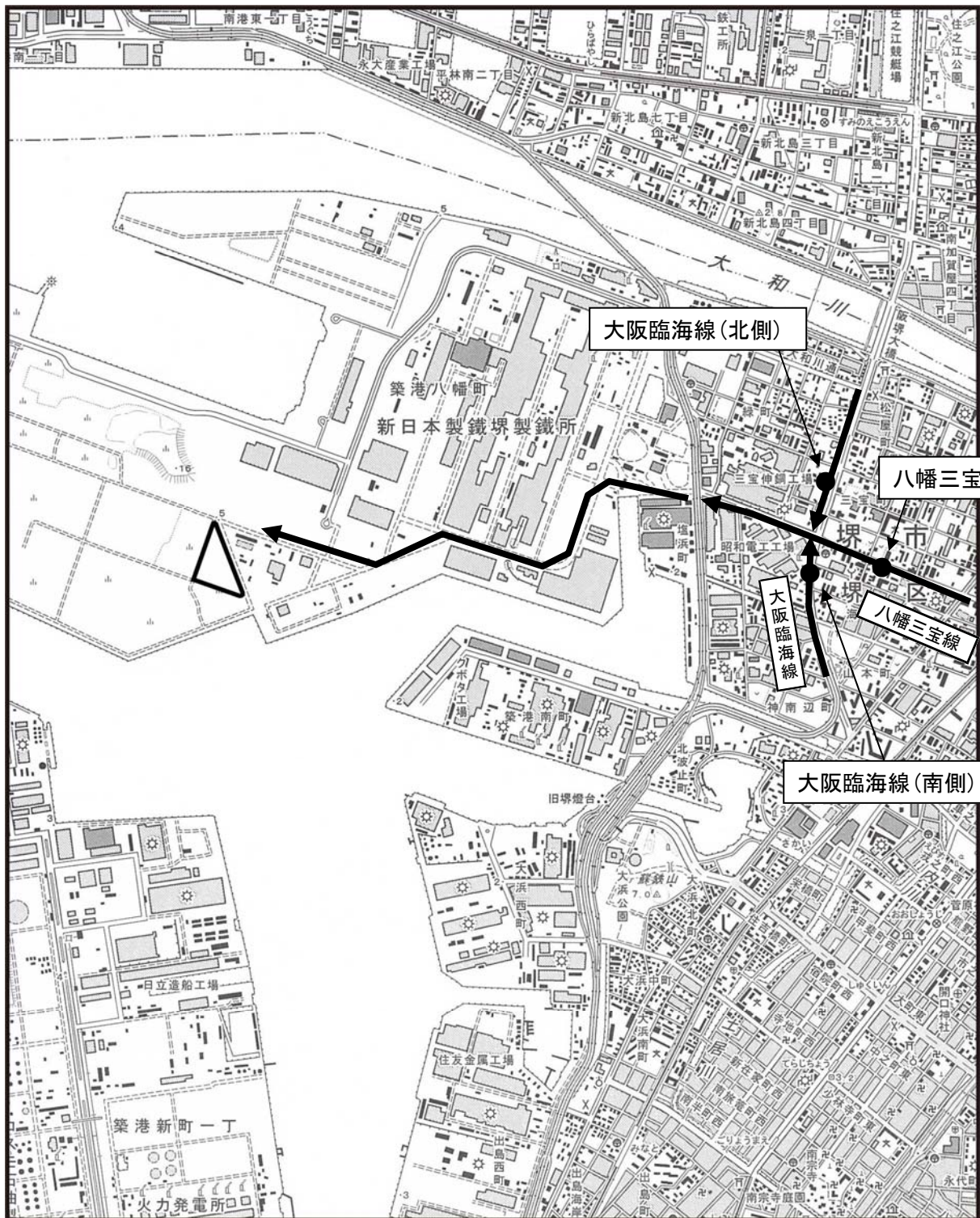
4-1. 調査項目及び調査内容

事後調査の調査項目、調査地点、調査時期、並びに調査方法は表 4-1 に、主な調査地点は図 4-1 に示すとおりです。

表 4-1 事後調査内容（工事中）

環境項目	調査項目	調査地点	調査時期	調査の方法	報告時期
騒音 振動 交通量	道路交通騒音 道路交通振動 交通量	八幡三宝線 及び大阪臨 海線	時期：工事の最盛期 頻度：平日 1 回 (時間帯:6~22 時)	騒音：JIS Z8731 振動：JIS Z8735 交通量：カウント	調査翌年度 4 月に提出
廃棄物	種類、発生量	工事現場	時期：工事期間 頻度：1 年間	廃棄物の処理実績 を集計	毎年度 4 月に 前年度報とし て報告
安全	工事用車両等 の搬入台数	工事現場	時期：工事の最盛期 頻度：月毎	工事現場でカウ ント	毎年度 4 月に 前年度報とし て報告
水質	pH、濁度	雨水排水路 もしくは下 水道への排 出口	時期：工事期間 頻度：常時監視	pH、有害物質：環 境庁告示第 64 号 排水基準に係る検 定方法 濁度：JIS K0101	毎年度 4 月に 前年度報とし て報告
	有害物質		時期：工事期間 頻度：適宜		

注) 斜体については平成 22 年度実施、報告済みです。



凡例

— : 事業計画地

● : 安全調査地点

← : 主な搬入経路

この地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図（大阪南西部、堺）を使用したものである。



1 : 25,000

0 500m 1km

図 4-1 主な調査地点

5. 事後調査の結果及び検証

5-1. 廃棄物

今年度における工事期間中の廃棄物の調査結果の内訳は、コンクリートがらが 166.6t、金属くずが 49.8t、廃プラスチック類が 42m³、建設混合廃棄物が 905m³でした。

主な項目について詳細説明は以下に示すとおりです。今後も、発生量の低減、有効利用に努めます。

- ・ コンクリートがら
産業廃棄物として適切に処理しました。なお、出されたコンクリートがらは、大半再生利用されていますが、1.4%程度最終処分となった ALC ボードくずがありました。
- ・ 金属くず
分類して有価物として利用しています。
- ・ 廃プラスチック類
梱包を最小限とし、発生抑制に努めました。
- ・ 建設混合廃棄物
選別破碎後コンクリートがら及び金属くずは、上述同様に処理を行いました。また、木くずは再生紙原料、石膏ボードくずは再生ボード原料として処理を行いました。この内、再生利用できずに最終処分とした陶磁器くず、がれき類は 6.1%程度でした。

5-2. 安全

今年度における工事期間中の安全の調査結果は表 5-1 に示すとおりです。

工事用車両の調査期間中における 1 日の最大台数は、大型車 35 台、小型車 140 台でした。昼間の時間帯における工事用車両の占める割合は最大でも 0.25%と小さく、影響は小さいものと考えられます。

今後も、工事工程の調整により、工事用車両台数の平準化に努めます。

表 5-1 安全の事後調査結果

時間帯 (7:00~19:00)	12 時間交通量 (台)				内工事用車両			工事用車両の 占める割合 (%)
	小型車	大型車	二輪車	合計	小型車	大型車	合計	
八幡三宝線	4,705	2,360	243	7,065	13(8)	5(3)	18(11)	0.25(0.16)
大阪臨海線 (北側)	21,322	14,845	1,462	36,167	64(40)	24(15)	88(55)	0.24(0.15)
大阪臨海線 (南側)	22,056	15,090	1,413	37,146	63(39)	6(3)	69(42)	0.19(0.11)

注 1) 合計に二輪車は含んでいません。また、工事用車両は全ての時間帯の交通量です。

注 2) 12 時間交通量は平成 22 年度事後調査報告書に記載のデータを用いました。

注 3) 工事用車両は調査期間中の日最大台数であり、() 内は、調査期間中の平均値を示します。

5-3. 水質

調査期間中の水質の調査結果は表 5-2～5-3 に示すとおりです。水素イオン濃度及び浮遊物質質量について、工事用車両の退出時におけるタイヤ洗浄水を集水し、1日2回、測定を実施し、排水濃度を監視しています。また、有害物質等についても適宜、排水濃度を監視しています。この排水を適切に処理するため、下水道へ放流しています。なお、いずれの項目ともに堺市下水排除基準を満足しています。

表 5-2 水質の事後調査結果 (pH、濁度)

年月	水素イオン濃度 (単位: pH)			浮遊物質質量 (単位: mg/L)		
	最小値～最大値	平均値	排除基準	最小値～最大値	平均値	排除基準
平成 23 年 11 月	6.8～7.6	7.4	5 を超え 9 未満	94～162	121	600
平成 23 年 12 月	6.4～8.0	7.1		105～141	125	
平成 24 年 1 月	6.1～7.8	6.7		53～148	86	
平成 24 年 2 月	6.5～7.1	6.9		54～182	87	
平成 24 年 3 月	6.5～7.1	6.8		57～133	85	

表 5-3 水質の事後調査結果 (有害物質等)

試料採取日: 平成 23 年 11 月 8 日

調査項目	単位	計量結果	排除基準	調査項目	単位	計量結果	排除基準
カドミウム及びその化合物	mg/L	<0.001	0.1	チオベンカルブ	mg/L	<0.002	0.2
シアン化合物	mg/L	<0.01	1	ベンゼン	mg/L	<0.001	0.1
有機燐化合物	mg/L	<0.01	1	セレン及びその化合物	mg/L	<0.002	0.1
鉛及びその化合物	mg/L	<0.005	0.1	ほう素及びその化合物	mg/L	0.06	10
六価クロム化合物	mg/L	<0.01	0.5	ふっ素及びその化合物	mg/L	0.2	8
砒素及びその化合物	mg/L	<0.005	0.1	ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.72	10
水銀及びその他の水銀化合物	mg/L	<0.0005	0.005	クロム及びその化合物	mg/L	<0.02	2
アルキル水銀化合物	mg/L	<0.0005	検出されないこと	銅及びその化合物	mg/L	<0.01	3
ポリ塩化ビフェニル	mg/L	<0.0005	0.003	亜鉛及びその化合物	mg/L	0.09	2
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	0.2	フェノール類	mg/L	<0.005	5
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.02	鉄及びその化合物 (溶解性)	mg/L	0.09	10
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	0.04	マンガン及びその化合物 (溶解性)	mg/L	0.01	10
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	1	生物化学的酸素要求量	mg/L	1.5	600
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	0.4	浮遊物質質量	mg/L	18	600
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	3	ノルマルヘキサン抽出物質 (鉱油類)	mg/L	<0.5	5
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	0.06	ノルマルヘキサン抽出物質 (動植物油類)	mg/L	<0.5	30
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	0.3	窒素含有量	mg/L	3.8	240
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	0.1	燐含有量	mg/L	0.08	32
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.02	水素イオン濃度	pH	7.4	5 を超え 9 未満
チウラム	mg/L	<0.0006	0.06	水温	°C	15.0	45
シマジン	mg/L	<0.0003	0.03	沃素消費量	mg/L	<0.5	220

注) 表中の「<」は定量下限値未満であることを示しています。